

今回の東京研修の最初は、ディレクトフォース夏季プログラム「世界のグローバル化の中でどう備えたら良いか？」の基調講演（MissionARM Japan 代表 近藤玄大氏）とグループセッションで 3 人の講師の方々に貴重なお話を聞きました。近藤さんは様々な経験をしてきた凄いなんだなと思いました。ものづくりは映画製作と似たようなものとおっしゃっておりものは言葉を通さなくとも伝わる世界共通言語なのだと知りました。近藤さんは大企業について後ベンチャー企業につき、最終的に非営利的な団体の NPO につき義手をつくりました。近藤さんの話を聞いて、義手の大量生産、大量消費の概念から個人的なものという考え方に変わりました。近藤さんの話を聞いて、自分の好きなこと、やりたいことを続けて仕事にできるのはすごいことだし、羨ましいなと思いました。

グループセッションの 1 人目の若松常美様に超超高層建築物をまっすぐ建てるにはの質問で意外な答えが返ってきました。それは、エレベーター、階段、排水溝、空調などを真ん中に集め、水平、垂直にするというものです。また、一級建築士の国家試験には 1 割しか合格できないと知り驚きました。その中でも女性は 2 割と貴重なんだなと思いました。

若松さんは仕事をするうえで責任感を持ってプライドを持って妥協しないと語っていてカッコいいなと思いました。自分もこんな大人になりたいと思いました。

2 人目の菅原信夫様の話によると、日本人はガラパゴス化しており国際法が弱いそうです。大学は院へ行かないと通用しない企業が増えているそうです。この話を聞き、青天の霹靂（せいてんのへきれき）のように感じました。

3 人目の土井様はアジア少子高齢化についてよく考えており、シリア難民キャンプに参加し、お金を使ってどれだけ社会を良くできるか考えており、すごい人だと思いました。土井様は、ノーベル賞受賞者世界第 1 位のカリフォルニア州にある、カリフォルニア大学に通ってたそうです。土井様は、日本は平和、安全、豊かというイメージをもたれていておっしゃっていました。悲観的な考えをし、厭世主義になることは我々日本人にとってマイナスとなり、非常に好ましくないとおっしゃっていました。土井様は、退職しても、高齢者は社会と関わるべきで、当たり前のことをしていく地域主体が大切だという考えをもっていました。私は海外営業に興味がありますが、海外営業では相手の求めることをコミュニケーション能力で聞く、自分の伝えたいことを売る力、語学力が大切だと知りました。土井様は経済利益と社会利益の両立をめざしており、このような人が増えればいい社会になるとおもいました。

午後は外務省への企業訪問でした。外務省は 2.3 年で担当が変わるそうです。また、43 カ国語の言語があるそうです。外務省本省と在外公館の違いは本省は政策を伝える機関で、それぞれの国の情報を集めてそれぞれの国に伝達、交渉するのが在外公館です。日本は ODA（政府開発援助）の無償資金援助、有償資金援助、技術協力をしてアピールしています。驚いたのは、開発途上国が 150 カ国以上で 80%だという事実です。外務省の説明をしてい

ただいた川村さんはアフリカのウガンダという国へ行き、その国の少年兵などに様々な話を聞いたことがあるそうです。ウガンダやコスタリカなどは今でも紛争が続いており私たちよりも若い子供達が兵の 8 割をしめています。そういった国はたくさんあり、川村さんはその国々が元の社会に参加できるか、紛争の原因は何なのかなどをカナダのトロントに留学して勉強したそうです。

日本と他国をつなぐ存在になりたいと思う人々が外務省にはたくさんいました。外務省ではいくつか質問をさせていただきました。1つ目は世界と関わる上で意識することはなにか。それは、国によって働き方が違うからその対処能力を高めるということです。特に時間の意識の仕方がその国によって大分変わるそうです。2つ目は短いサイクルで担当が変わるのはなぜか。ずっとその担当をしているとその担当のことしかわからなくなるからです。様々な部に行くことで広く外交を理解できるからです。3つ目は高校生としてやるべきことはなにか。外務省で求められることは当たり前ながら高い英語力。そのために英語は留学してやり直しもします。高校生では世界史、2世紀分くらいの近代史の知識が必要だそうです。4つ目は外務省の魅力はなにか。それはいろいろな人に出会えるということです。5つ目は外務省と在外公館は、どのように情報を交換するか。国連代表部で電報をつくり本省から在外公館へ報告書を毎日のように送りあっているそうです。6つ目は、外国人と話すときに心がけていることはなにか。それは、よく伝えられるように明確なアクセント、ゆっくり的確な発音だそうです。外国人との共通項はゼロなわけで友達とは全く違います。仲良くなれるには共通の話題を探すことが重要だそうです。初めて外務省へ行き、貴重なお話をたくさん聞かせていただけてとても良い経験になりました。これからの進路選択に活かしていければいいと思います。

夜は OBOG 座談会。ここでは東大の魅力やサークルの話などを聞き、明日の東京大学キャンパス見学会が一層楽しみになりました。

2日目の東京研修は陸上部での朝練から始まりました。駒場キャンパスへ行き、まず東京大学の規模の大きさに驚嘆しました。そして図書館もとても大きくて充実しているのだと思いました。ワークショップでは自分の現時点での進路を見つめ直すというもので、実際に東大の人の話も聞いてよかったです。プレゼンテーション 1人目は将来の夢から逆算して大学を決めて夢に一番近づけるのが東大だから入ったそうです。2人目ははじめは何となく東大が一番偏差値の高い大学生だから、という理由で入ったそうです。でも大学に入ってから自分の将来につながりそうな興味の湧くことを学べられたそうです。2人の東大生の話を聞き、私はまだ大学を明確に決められていないのでとても良い参考になりました。なんとなく入ってもいいのだと思いました。将来のことを考え、これから大学、学部、学科についてたくさん調べる必要があると思いました。

そのあとの個別相談会では東大生に高校の時の勉強、科目選択、模試で大切なことは判

定や点数ばかりを気にするのではなく、これからを考えてどこができていないかを確認する、いつ受験勉強をはじめたか、1日どれくらい勉強していたか、英語の勉強法は1つ1つの単語を語源で覚えたり例文と一緒に覚えて使えるのうにする、苦手科目の勉強法、数学の勉強法は証明を覚えたりする、など為になる話をたくさんしてもらえて充実した時間でした。その後の模擬ゼミでは本当に難しい内容でしたが、なかなか体験できないようなゼミを受けられて貴重な時間になりました。東大生の方々は少し緊張していた私たち高校生に気さくに話しかけてくださりとても楽しいオープンキャンパスになりました。

この2日間は、何もかもが初めてのことばかりで本当に充実した貴重な経験だったと思います。講師の方々、外務省の方々、東大生の方々のお話はどれも驚きと発見がいっぱいで知識が増えました。また、自分の将来と少しだけ向き合うこともできました。この東京研修で学んだたくさんの方のことを糧にしてこれから自分の進路選択や将来について考えていきたいと思っています。